

広島市植物公園が 2024年に導入した変化朝顔

山本晃弘・松浦壱昂（広島あさがお研究会）

はじめに

広島市植物公園（以下、植物公園）では、1982年以降、変化朝顔の収集保存を継続して行っている（井上・門村 1998, 井上 2004, 井上 2012）。本稿では、2024年に導入した6系統を記録する（図1・表1）。

導入した変化朝顔

系統名：大右近（図 1A）

見立名：青斑入蜻蛉葉淡黄丸咲中輪あおふいりこんぼはあわきまるざきちゅうりん

青葉で斑が入る蜻蛉葉（トンボが翅を広げたような型に由来。葉の中央列片および花の曜が伸びる）。花は淡黄色の中輪となる。本系統は、植物育種家の藤田雅矢氏の作出によるもので、ヨウジロアサガオを交配親としている（藤田雅矢氏からの聴き取り）。栽培の際は、他の系統と交雑する可能性があるため注意が必要である。なお、本系統については2014年に藤田雅矢氏から既に導入していたが、著者の一人である松浦を通して、藤田雅矢氏から改めて導入した。

系統名：国の光（Q0183）（図 1B）

見立名：黄斑入蟬葉紅多曜咲大輪きふいりせみはべにたようざきたいりん

黄葉で斑が入る蟬葉系統（葉をセミが翅を広げた様子に見立てたもので、蜻蛉葉と州浜（列片が丸くなり花の曜の数が増える）が複合したもの）。花は大輪の遅咲きで曜が7つ程度と多くなるのが特徴。本系統は戦前に作出されたもので、戦後に池田喜兵衛氏の維持品種から出たものとされる（米田 2006）。草勢中性、葉腋に芽および蕾がつかないものが出やすく、蕾つきに難があるとされる（米田 2006）。

系統名：G0504（図 1C）

見立名：黄蜻蛉立田葉紅筒白切咲きとんぼたつたはべにつじろざき

黄葉の蜻蛉立田葉系統。蜻蛉葉と立田葉（モミジの葉のような、細く5裂した裂片を有する）の変異を併せ持つ。花は紅色で筒が白い切咲（花弁が切れ込む）。節間が緑色となる（九州大学 2020）。国立遺伝学研究所から広島あさがお研究会会員の渡邊徹弥氏が購入後当園に分譲された。

系統としては、当園が1982年に国立遺伝学研究所の木村資生氏から受領した「No.2（黄尾長立田葉紅切咲）」（井上 2012）、および九州大学の「Q0506」と同じものと考えられる。

系統名：Q0555（図 1D）

見立名：青斑入小型並葉紫捻梅咲あおふいりこがたなみはむらさきねじうめざき

青葉で斑が入る小型の並葉系統で、花はややくずれた捻梅様を呈する（九州大学 2020）。曜が部分的に萼に変化するため、曜の一部にクロロフィルが見られることがある。なお、本系統については1998年に高橋久太郎氏（静岡県焼津市）から既に導入していたが、著者の一人である松浦から改めて導入した。

系統名：石化木立白（図 1E）

見立名：青斑入孔雀葉石化木立白切咲あおふいりくじゃくはせつかこだちしろざき

青葉に林風（葉柄の付け根が広がり葉が歪む変異）様の癖を持つ。石化（茎が平らな帯状になる）と木立（節間が詰まり蔓が伸びにくく、葉が長く花が浅く切れる変異）の系統で、花は白切咲となる。基本的に種子は白色であるが、2024年に2株栽培し、採種したうちの1つは種子が黒色となった。種子がでにくい。

系統名：縮緬石化（図 1F）

見立名：青縮緬孔雀葉石化紫台咲あおちりめんくじゃくはせつかむらさきだいざき

青葉で縮緬（葉が縮緬状となる変異）と石化の変異を併せ持つ。花筒が折り返し茶台状となる台咲系統。縮緬の変異を有する系統は、アサガオ白さび病を発症しやすいため、栽培時は注意が必要である。種子がでにくい。

謝辞

本稿の執筆に際して、藤田雅矢氏、寶田雅裕氏、渡邊徹弥氏には大変お世話になりました。ここに記して感謝申し上げます。

引用文献

井上尚子・門村逸喜 1998. 新たに導入したアサガオについて. 広島市植物公園栽培記録 19: 20-22.

井上尚子 2004. 広島市植物公園が保有する変化アサガオ. 広島市植物公園栽培記録 25: 11-13.

井上尚子 2012. 広島市植物公園が保有する変化

朝顔の系統リスト (2011 年). 広島市植物公園
栽培記録 33 : 8-10.

九州大学 2020. 系統リスト 2020. 九州大学
HP [http://mg.biology.kyushu-u.ac.jp/strain/
strainlist.html](http://mg.biology.kyushu-u.ac.jp/strain/strainlist.html)

(2025 年 7 月 14 日閲覧)

仁田坂英二 2014. 変化朝顔図鑑 : アサガオとは思
えない珍花奇葉の世界 . 112pp, 化学同人, 東
京

米田芳秋 2006. 色分け図鑑 朝顔. 192pp,
Gakken, 東京

表 1 広島市植物公園が 2024 年に導入した変化朝顔

系統名	種別	主な表現型	導入元	備考
大右近	正木	青斑入蜻蛉葉 淡黄丸咲大輪	藤田雅矢氏	ヨウジロアサガオとの交配 作出者の藤田氏から松浦*が受領し当園に導入
国の光	正木	黄斑入蟬葉 紅多曜咲大輪	石黒和昭氏**	キフセ無地戦前種 石黒氏から松浦*が受領し当園に導入
G0504	正木	黄蜻蛉立田葉 紅筒白切咲	国立遺伝学研究所	渡邊徹弥氏*が国立遺伝学研究所から購入した 種子を当園に導入
Q0555	正木	青斑入小型並葉 紫捻梅咲	松浦壱昂*	松浦*から当園に導入
石化木立白	正木	青斑入孔雀葉 石化木立白切咲	伊藤重和氏**	伊藤氏から松浦*が受領し当園に導入
縮緬石化	正木	青縮緬孔雀葉 石化紫台咲	伊藤重和氏**	伊藤氏から松浦*が受領し当園に導入

* 広島あさがお研究会会員

** 変化朝顔研究会会員

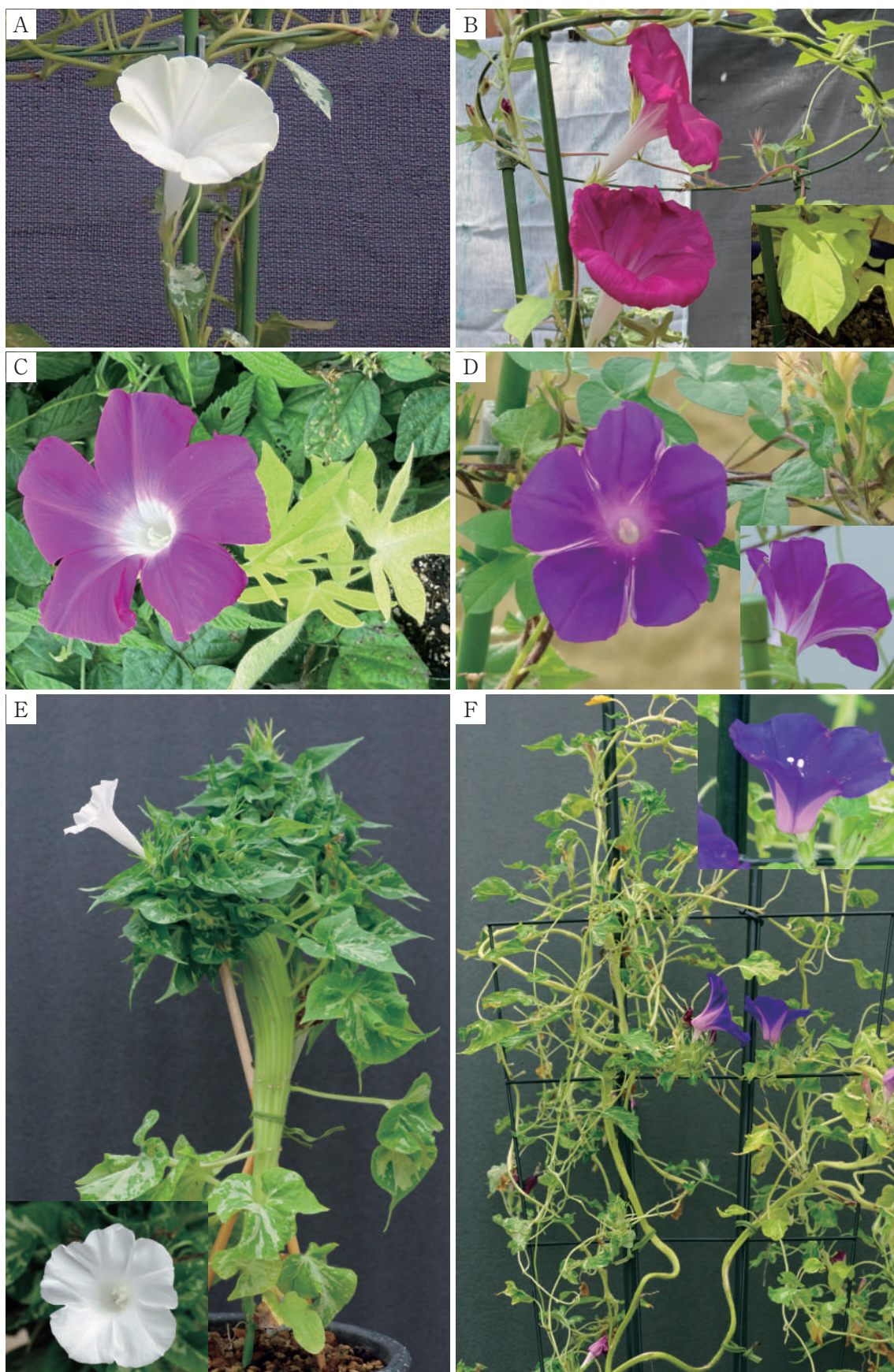


図1 広島市植物公園が2024年に導入した変化朝顔

A：大右近、B：国の光、C：G0504、D：Q0555、E：石化木立白、F：縮緬石化